

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690600042		
法人名	NPO法人生活支援センターアットホーム新川		
事業所名	グループホーム沖田金さん銀さん		
所在地	滑川市沖田新41		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で、掃除、食事準備、草むしり、畑仕事など一人一人出来る範囲で役割を持って頂いている。</li> <li>小中学生の訪問や演芸ボランティアに訪問していただく時は、ご近所にお知らせして一緒に鑑賞している。</li> <li>火災避難訓練には、近隣の方にも参加をお願いをして避難誘導をして頂いている。</li> <li>ご近所のカメラ愛好家の写真を施設内に展示している。</li> <li>誕生日に本人の希望の食事を聞き、家族も招いて一緒に食事をいただき楽しい食事会になりました。</li> <li>秋にはりんご・梨園に行き摘み取りをさせてもらって食べて来ます</li> <li>全員で昼食を食べに外出します。又、希望があれば一人でも外出します。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づいた今年度のケア目標は「地域に向き交流の機会を増やす」と職員全員で話し合って決め、地域行事の情報収集に努めサービスにつなげている。利用者一人一人の思いを傾聴しながら、生活に役割や喜びを見出し人格を尊重した個々の能力を活かす個別ケアに取り組んでいる。年度の運営方針説明時や介護計画見直し時期に、家族の意見や要望を聞き取り、家族の意向に沿ったサービス提供に努めている。</p> <p>月1回音楽療法士が来所して回想法・音楽レクリエーションを行い、年1回家族を招待して発表会を開催している。利用者の思い・言葉を引き出し、コミュニケーションツールに活用している。人前で歌えなかった方が楽しそうに歌うなど、笑顔・笑い声が増え利用者の楽しみになっている。</p> <p>運営推進委員の意見で利用者と一緒に災害時地区避難場所までの避難訓練を実施し、所要時間や課題の検証を行い災害時の対応に備えている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所に何時でも視界に入る様に見やすい所に貼っている</li> <li>・職員は全員理解していると思います</li> </ul>	法人理念や毎年度の運営方針に基づいた「ケア目標」を職員全員で話し合って策定した。事業所内に掲示し、職員会議で確認しながら共有と周知を図っている。今年度は「地域に出向き交流の機会を増やす」を掲げ、サービスに反映し実践につなげようと取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはぎを作って近所に配る、今年町内夏祭りに参加する</li> <li>・近隣の方が犬の散歩がてら立寄られる</li> <li>・小中学生や芸能ボランティアの来訪時に近隣の方に声掛けて鑑賞していただいている</li> <li>・火災避難訓練時に近隣の方も参加している</li> <li>・近くの写真愛好家の写真を展示している</li> </ul>	町内会に加入し回覧版でホーム行事を報告し、地域の方々が気軽にホームを訪れるよう取り組んでいる。町内の夏祭りなどの行事の参加・ホーム納涼祭・世代交流(小学校のボランティア委員:中学校の合唱クラブ)・ボランティア受け入れなどや日常的に散歩・買い物時に近所の方々と挨拶や会話を交わす近所付き合いが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌を町内に回覧してもらっている</li> <li>・年2回の避難訓練に近隣の方にも参加していただき、避難時の支援方法を学んで頂いている</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな意見を聞いて施設運営に役立っている</li> <li>・地域の行事や状況を教えて頂いている</li> <li>・ご家族の参加もあり率直な意見を頂いている</li> </ul>	会議(2ヶ月ごと開催)では運営状況や活動内容を報告して活発な意見交換を行い、地域交流を増やそうと地域行事の情報収集に努めている。委員より「災害時の避難状況の確認が必要」との意見で、委員も参加して地区避難場所まで利用者と一緒に移動し所要時間や課題の確認を行い、災害時の対応に活かしたいと取り組んでいる。	会議に出席していない家族にも、会議で話し合った内容を知っていただく取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括支援センターの研修会に参加している</li> <li>・運営推進会議に市社会福祉協議会や包括支援センターの職員に参加していただいている</li> </ul>	市担当職員には運営推進会議で運営状況や活動内容を報告し、いつでも相談・助言をいただく協力関係を築いている。市主催の地域ケア会議や研修会に参加し日々のサービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族との合意の上2日間身体拘束を行った</li> <li>・職員会議において、個々のケースが拘束に該当しないか検討している</li> </ul>	内外研修会で身体拘束のリスク・具体的な内容の理解を深め、職員会議で個々のケースについて身体拘束につながらないか？や生活状況に沿った個別ケアを検討して、身体拘束をしないケアが実践されている。生命に危害を及ぼす場合や疾病悪化で短期間身体拘束する場合は、家族に拘束内容を説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会に参加し職員会議で報告し、検討している</li> <li>・全職員のアンケートでの良い言葉遣い、悪い言葉遣いの資料が配布されている</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会に参加し職員会議で報告し、検討している</li> <li>・パンフレットを事務所に置き、何時でも読めるようになっている</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部事務所でケアマネージャー同席のもと十分な説明を行っている</li> <li>・情報収集や意見の交換も行っている</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプラン更新時に家族の意見を聞いている</li> <li>・施設来所時には日頃の様子を詳しく伝え、家族の思いも聞く</li> <li>・苦情があった場合、その都度職員会議にて報告、検討している</li> </ul>	年度始めに今年度の運営方針を説明し、意見・要望を聞き取っている。広報誌(2ヶ月ごと)に家族通信欄を設け、利用者個々の暮らしぶりを記入してホームでの生活を知っていただいている。面会や介護計画説明時に積極的にコミュニケーションを図り、聞き取った意見・要望を記録し職員全員で共有して運営やサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスカチェックのアンケートを行っている</li> <li>・主任会議、各委員会がそれぞれにアイデアをだし意見交換をしている</li> </ul>	職員は職員会議(月2回)や法人委員会活動での意見交換、また、自己診断後の法人事務長との個人面談で、意見・提案を言う機会を設けている。管理者は職員一人一人と積極的にコミュニケーションを図り、出された意見は、法人主任者会議に報告・協議して運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与の面では年々改善されている</li> <li>・積極的に研修会に参加している</li> <li>・法人全体で職員のレクリエーションを行い、福利厚生と職員交流を図っている</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修会に積極的に参加し、職員会議で報告、検討している</li> <li>・本部事務所に専門書を置き、貸し出しを行い知識向上の為に読んでもらっている</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県グループホーム協議会が実施している研修会に参加している</li> <li>・市グループホーム協議会が実施している交換交流に、職員や入居者さんが参加しその時の様子を職員会議で報告している</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に家族や本人から情報、希望を聞き思いを理解する ・これまで利用していたサービス機関からも情報収集し配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前の面接時や入所後は家族と積極的に話し合い、本人、家族にとって一番良い方法をとる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族、関係機関を通じて必要とされるサービスを見極める ・生活している間に必要と思われるサービスを職員会議で検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一緒に掃除、調理、洗濯、草むしり、畑仕事をして野菜の作り方も教えてもらう ・簡単なおやつ作りをする ・同じ目線に立ち話し、本人の意向を尊重する		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・受診には家族に付き添ってもらい、誕生会や音レク発表会に参加してもらったりと訪問する機会を多くしてもらっている ・面会時日頃の様子を詳しく話して意見も聞いている、又広報誌で近況報告もしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の希望があれば自宅に行く、又近辺にドライブに行く ・以前利用していたスーパーに買物に行く ・希望があれば一人でも外出し気分転換を図る	正月・お盆時の自宅外出泊や行きたい場への外出・外食を家族の協力のもと行っている。家族・友人の面会時には居室でゆっくりと過ごせるよう配慮し、利用者の希望に沿った個別外出・馴染みの店での買い物・外食などを行い、馴染みの場や人の関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う人同士進んで会話している ・外出の誘いも入居者が声掛けを行っている ・入居者が浮かぬ表情をしていると職員も間に入り会話を進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所、入院時には今までの経過や情報を各機関に提供している ・相談があればその都度対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式で本人の思いや生活歴を記入し把握している ・常に本人の言動などで本人の思いを理解する ・プラン作成時に本人、家族の意向を聞く ・誕生日のプレゼントの希望を聞く	家族情報や入居前に聞き取った生活歴・ADL等をアセスメントシートに整理し、日々記録している個別ケアノートの情報を職員会議で個々に検討して、思いや暮らし方の希望の把握に努めている。また、心身状況変化や職員の気づきもその都度アセスメントシートに記録することで、洞察を深めることを効果的にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式で生活環境や生活歴を記入し、どの様な支援が必要か把握する ・日頃の会話の中からのいろんな情報を得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各自に合った家事での役割やレクリエーション活動を実施している ・バイタルを測定し観察する ・ケアノートを詳しく書く様に改善した		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランの作成時に本人や家族の思いを確認する ・ケアプランを職員会議で意見を出し合って決定している	介護計画の見直し時期には家族から計画内容の要望を聞き取り、職員会議で検討して家族の意向に沿った計画をケア・マネジャーが作成している。	職員会議(月2回)で検討しているサービス提供状況や生活課題等をモニタリングに活かし、計画作成に反映する取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録やチェック表を個々に作成し記入している ・職員会議で情報を共有、ケアマネと相談、検討し見直しを実施する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・様々な演芸ボランティアに来て貰っている ・本人の希望で買い物に同行する ・花見、紅葉狩り、外食等、外出の機会も多い ・家族が受診同行出来ない時、緊急時は職員が同行する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の小中学生、演芸ボランティアの訪問がある</li> <li>・近隣の方々の訪問もあり、町内の夏祭りにも呼んでいただき参加する</li> <li>・図書館を利用する</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医は本人、家族が決定する</li> <li>・決められない時は施設の契約医を紹介する</li> <li>・受診時は家族が同行するが、都合の悪い時、遠方の方は職員が同行する</li> </ul>	かかりつけ医は、事業所の契約医の情報を提供し利用者・家族の希望で選択してもらっている。契約医の月1回の往診・家族受診付き添い時の情報提供や必要時の受診同行を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。日頃からかかりつけ医と連絡を取り合い疾病の悪化を防ぎ、夜間の急変時には救急車に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が週4回勤務しているの、状況に応じて対応している</li> <li>・家族と受診する場合近況を詳しく説明している</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時には情報提供を行なっている</li> <li>・入院中面会を行い本人の状況を確認したり、病院関係者から情報を得ている</li> <li>・病院の地域連携室と連絡を取っている</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時にきちんと説明を行っている</li> <li>・重度化した場合は、家族と協議して今後の対応を検討する</li> <li>・看取りについては医師との連携も必要なので今は考えていません</li> </ul>	契約時に事業所のできること・できないことを説明して、利用者・家族に理解を得ている。利用者の心身状態変化時にはかかりつけ医・家族と相談しながら、入退院時は地域連携室と連絡を取り合い、利用者・家族の意向に沿った支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時のマニュアルを作成して見やすい場所に貼っている</li> <li>・消防署で救命講習を受けている</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回夜間と日中を想定して避難訓練を実施、同時に消火器訓練を実施している</li> <li>・訓練時に近隣の方も参加して協力してもらっている。備蓄品も1日分用意してある</li> <li>・シェイクアウト訓練に参加している</li> </ul>	消防署や近隣住民の協力を得て、年2回(日中・夜間)利用者と一緒に火災訓練を実施している。町内会災害訓練の参加・地区指定の避難場所に利用者と一緒に避難して移動時の時間や課題の把握に努め、災害に備えている。また、法人は災害時の安全確保に活かそうと地区の情報収集に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の性格を理解して、尊重しながら各自に適した対応を取っている</li> <li>委員会で作成した「進めたい言動、避けたい言動」を職員に思い出してもらう</li> <li>それぞれの能力に応じたレク活動や家事を行う</li> </ul>	法人接遇委員会が中心になって職員全員に「進めたい言動・避けたい言動」のアンケート調査を実施し、調査結果を職員会議にて周知徹底を図った。人格を尊重しプライバシーを確保したサービスの実践のため、職員一人一人が意識して接遇改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション活動、家事手伝い、外出への参加、草むしり、畑仕事は本人の希望を聞いて行っている</li> <li>誕生会の日には本人の希望の食事を作って食べて頂いている</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事以外は自由にレクリエーション活動や皆さんでテレビをみたり、歌をうたったりして過ごしている</li> <li>散歩したい時も職員と一緒に外に出ている</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中は自分の好みの服を着ている</li> <li>髪カットは2カ月に1回行っている</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の準備、盛り付け、下膳、食器洗い、食器ふきを手伝ってもらっている</li> <li>時々職員と入居者さんと一緒に調理したりしている</li> <li>誕生会の日には好みの昼食を食べている</li> </ul>	嗜好や食品アレルギーに配慮した献立を立て利用者のできる調理の下準備や盛り付けなどを一緒に行い、職員と食卓を囲み会話を楽しみながら利用者のペースに合わせ食事をしている。季節の行事食や手作りおやつ・誕生日には利用者の希望を取り入れた食事・外食・季節の野菜を取り入れるなど、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事量を記入して管理している</li> <li>夏季はおやつに寒天、ゼリーを作って水分補給も兼ねて食べてもらっている</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>声掛けにて洗面所で義歯洗浄、うがいを行っている</li> <li>1人で出来ない人は介助にて行っている</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を作成して時間を見ながら声掛けにてトイレ誘導している	24時間対応排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握して、プライバシーと安全を確保した時間ごとの誘導や声かけを行い、トイレでの排泄を基本に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄がスムーズに出来る様な食品を摂取してもらう(ヨーグルト、冷たい牛乳) ・バランスの取れた食事や水分を補給している ・歩行運動をするように心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2～3回の入浴を心掛けている ・都合が悪く出来なかったときはその都度変更して入浴してもらっている	利用者の体調や希望に合わせて週最低2回を目安に、ゆず湯・各種入浴剤を使用し季節感を大切に、職員と1対1で利用者のペースでゆっくりと入浴している。また、利用者の身体状態に合わせ、職員が2人で介助し安心・安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・自由に休んで頂いているが昼夜逆転も考えられるので日中は会話や運動をしたりして気をくばっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・食後手渡しで口の中に入れ飲まれるのを確認している ・薬が変更になっている場合は状況を観察し主治医との連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・体操やゲームをしたり、個別にレクリエーション活動をしたりしている ・毎月1回音楽レクリエーションを行っている ・食事の準備、後片付け、掃除などの役割を持ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は散歩、ドライブ、草むしり、畑仕事を行っている ・花見、紅葉狩り、リンゴ狩り、外食を楽しんでいる ・市内の施設と合同で運動会を行っている	年間行事計画表を作成し、季節ごとの花見や地域行事参加・利用者が希望する場へのドライブ・日常的に天気の良い日の散歩・買い物・外食など、外出の機会を多く持っている。また、車いす対応車が配備され、移動状態が悪化した方の外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小遣いは施設で管理している ・お金を所持していないと不穏になる方には、家族と相談の上所持してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯を持っておられる方もいる。家族には自分で連絡している ・葉書を出している人もいる ・家族からの手紙や葉書は本人に手渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・調理場と共有スペースが対面式なので全体を見渡せるので良い空間である ・窓より外の景色が見え季節感を十分に感じられ、四季の山々がとてもきれいです ・壁に皆さんの作品や写真愛好家の写真が貼ってあり温もりを感じられる	共有空間は天井が高く、無垢の木材をふんだんに使い明るく開放感がある。利用者と一緒に制作した季節ごとの貼り絵や写真愛好家の作品が掲示しており、利用者が思い思いに過ごせるようソファや椅子を適所に配置してある。窓から季節ごとに姿を変える山々や季節の野菜を育てている畑の生育状況が見え、室内でも季節感を感じていただいている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者同士の関係を考えて食堂の席の配置を決めている ・自席やソファに座って新聞やテレビを見ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に好みの家具などを持ってきて頂いている ・居室内の配置は本人と家族で行っている ・機能低下と共に居室内の環境整備を家族と共に行っている	居室は広々と明るく、ベッド・エアコン・クローゼットが整備され、自宅から使い慣れた家具・家族写真・好みの装飾品が持ち込まれている。居室レイアウトは移動状況や希望を考慮し居心地良く過ごせるよう配慮している。また、居室内に簡易物干しを設置し洗濯物のトラブル回避に努め、家族や友人の連絡に携帯電話の持ち込みも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレは直ぐにわかる様に張り紙をしてあり、使用中・空きの札も下げてある ・車椅子の方にも、可能な限り手すりを使用して移動してもらう		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム沖田金さん銀さん

作成日: 平成 29年 3月 15日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議が利用者や家族に、どのように行われているか、どのようなことを話し合ったか理解されていない	運営推進会議が2か月に1回開かれていることを利用者や家族に知っていただく	運営推進会議の議事録を家族に送付し内容を知っていただく	3ヶ月
2	10	ケアプランのサービス内容に対するモニタリングがきちんと行われていない	モニタリングをきちんと行い記録し次のプランのステップとする	月2回の職員会議で利用者さんへの対応の仕方を話し合っているため、それをモニタリングとして活用する為記録の仕方をきちんとしサービスに活かす	12ヶ月
3	14	利用者さんに対応する態度や言葉を改善する	利用者さんが安心してゆったりと過ごせるような環境作りをする	言葉遣いは特に気をつけ優しく対応する。個人を尊重して本人に合ったサービスを提供し職員の考えを押し付けない介護をするように心がける	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。